

英知学院の清算経験に基づく実務対応と制度課題の整理

学校法人英知学院 元理事・法人事務局長

左近充 隼人

令和7年4月24日

1. 設立から解散までの歩み

➤ 沿革

- 1970年： 「英知大学」(1963年開学)の設置法人として学校法人英知学院を設立(前身は百合学院)
- 1993年： 入学者数減少開始。
- 2000年： 定員割れ
- 2007年： 大学名を「聖トマス大学」に変更。学部改組。
- 2010年： 定員割れ悪化により学生募集停止。外部支援を得て再建を模索。
- 2014年： 再建断念。大学廃止と法人解散の方針を決定。
- 2015年4月： 大学の廃止 & 法人解散認可
- 2016年5月： 法人の清算終了

➤ 法人清算に至るまでの経緯

- 1993年以降、入学者数が減少し続け、2000年に定員割れ。経営悪化が進行。
 - ⇒ 2007年の大学名変更と学部改組にもかかわらず定員回復せず、2010年に学生募集を停止。
 - ⇒ 外部資金支援を受けて再建を試みるも断念。
 - ⇒ 最後の学生の卒業をもって大学廃止・法人清算を決定。

2. 大学廃止・法人解散に伴う主な課題

➤ 学生・教職員対応

- － 教育活動の継続、教育環境の整備、出身学生への周知
- － 教職員の確保、退職・解雇対応、組合対応

➤ 資産・財務対応

- － 固定資産・図書・備品の売却と寄附
- － 借入金・退職金財団の脱退に伴う残債務(特別納付金等)の返済

➤ 学籍関係書類の保存と継承

- － 学籍関係書類の保存先決定、電子化、マニュアル作成

➤ 関係者・地域対応

- － 同窓会との対話、記念事業、地域・メディア対応

➤ 清算手続き

- － 理事会・評議員会、文部科学省との連携、専門家の活用

3. 制度への提言

- 文部科学省および私学事業団による経営指導等の有用性
 - 不安の大きい中、丁寧かつ実務的にご支援いただいたことが大きな支えとなった。

- 今後、改善をご検討いただきたい事項
 1. 学籍関係書類の継承ルール整備と保管支援

 2. 図書・備品・不動産等の固定資産処分に関する指針の整備

 3. 大学廃止・法人清算に対応する実務ガイドラインの策定

 4. 大学廃止までの間の教育研究体制維持のための制度の在り方

 5. 清算フェーズに対応した支援制度の導入・拡充

4. 残余財産の活用事例

➤ あまがさき・ひと咲きプラザ

施設名	主な用途
ユース交流センター	若者の活動・相談の場
あまぶらり	学習室・図書コーナー(旧大学図書館)
子供の育ち支援センター「いくしあ」	子育て支援
総合教育センター	教職員研修

➤ 尼崎看護専門学校・・・教育資源の継承



ご清聴ありがとうございました。
